

「中小企業設備投資と景気変動の関係」

関西学院大学経済学研究科

博士課程後期課程 藤岡 由子

GDP の需要構成要素の中でも設備投資の変動が激しいことはよく知られており、日本企業の設備投資は景気変動を増幅してきたと言われている。つまり、企業の設備投資が活発に行われているということは景気が回復基調にある、あるいは、企業の経営者が景気の先行きについて強気の見方をしているということとを物語っており、逆に企業の設備投資が低迷しているということは、景気の先行きに対してあまり明るい見通しを持ってない、ということの意味している。その中でも景気に対してフレキシブルな対応をとれる、中小企業の設備投資がその牽引役を担っていると主張する研究者は少なくないが、その実証分析は極めて少ない。

本稿では中小企業に焦点をおいて、われわれの生活に密着した中小企業研究の重要性とその設備投資の景気との関係を調査している。まずは、景気の代理変数として機能し得る可能性のある指標の選択を行い、Granger 因果性検定を用いて景気変動に中小企業の設備投資が先行しているかどうかを分析した。その結果、「中小企業の設備投資が景気に対して先行していないとは言えない」という可能性が示された。大企業に比べて小規模な中小企業の設備投資とその小回りの利く、規模故の意思決定の速さが原因として考えられる。因果性検定だけでは影響力の強さを測ることはできないが、この研究において、景気の牽引役としての可能性があるということを示唆できたのではないかと考えている。

また、企業の業種別に個々の動きがないかどうかについても比較・検証する予定である。